

第4学年音楽科「情景を思い浮かべて工夫して歌おう ～『まきばの朝』～」

学習指導者 高口 佳子

まず曲を聴き、曲想について捉えた後「まきばの朝」という題名を知りました。そこでどうして「まきばの朝」という題名なのかと疑問に思った子供たちは、既習の歌唱の学習を手掛かりに、歌詞と楽譜に分けて音楽の構造に着目すれば理解したり、工夫して歌えたりできるのではないかと考え、題材の目標を設定し、工夫して歌うために曲を詳しく見ていこうと目標達成に向かいました。

「まきばの朝」の歌詞や音符からひみつを見付けよう

【見通し】

初めに聴いて捉えた「まきばの朝」の曲想から疑問に思ったことを基に、『まきばの朝』のひみつを見付けて工夫して歌おう」という題材の目標を設定しました。そして、ひみつを見付けるために、解決の手掛かりとしてきたものを書き溜めた「音楽の技リスト」や音楽を形づけている要素を一覧にした「音楽の宝箱リスト」、既習のワークシートを振り返り、その中から使えそうなものはないかなと考えました。歌詞や楽譜から音楽の構造を理解するためどのように目をつけてひみつを見付けるか、解決の見通しをもちました。



【行動】

歌詞と楽譜の考えやすい方を選択し、歌詞では、言葉の繰り返しや時間、自然を表す言葉に着目し、楽譜では、音の高低や、音符の長短といった特徴を見付けました。「これまでは題名の言葉を一番伝えたかったけど、この曲では朝のまきばに聴こえる音を伝えたかったのだろう」とこれまでの歌唱の学習と比較し、「まきばの朝」のひみつを見付けました。そして、同じ立場、違う立場の友達と見付けた意見を交流し合うことで新たな発見をし、音楽の構造をより深く理解しました。



【振り返り】

歌詞や楽譜を手掛かりに、新しく発見したことや友達の意見で参考になったこと、手掛かりをどのように使ったかについて振り返りました。また、これまでの学習がつながっていることを実感するために「音楽の技リスト」と「音楽の宝箱リスト」の中から使ったものに日付を書き加え、蓄積していき、学習のつながりを実感していました。そして、次はひみつを基に思いや意図をもって工夫して歌唱をしたり、歌唱を録音して聴いてみたりするという次時の見通しを立てて、意欲を高めました。



成果と課題

○これまでに学習した「さくらさくら」や「エーデルワイス」などの学習を生かしながら学習に向かう姿が見られた。また、同じ立場や違う立場の友達と意見を交流することで、新たな楽曲の構造に気付くことができた。

▲「工夫して歌いたい」という意識を高められていなかったため、「音の高低があるから強弱を工夫して歌えそうだ」などと考える姿が見られなかった。「歌い方の工夫につながるひみつを見付ける」という意識を強くもたせる必要があった。